

令和3年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和3年12月7日(火) 午後2時00分～午後4時30分
- 2 開催場所 伝国の杜1階 第1、第2楽屋
- 3 出席者
(委員) 10名
中村 純一、伊田 吉春、今野 孝義、新井千香代、前山みゆ子
山根 秀樹、永井 学、高野 正雄、布施 賢治、山村 洋子

(事務局) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団 9名
種村信次(理事長)、島津眞一(副理事長兼博物館長)、渡部洋己(常務理事兼事務局長)、
花田美穂(学芸担当主査)、阿部哲人(主査)、安部理絵(主任)、寒河江大輔(総務担当
主査)、小松史織(主事)、齋藤佳奈(主事)
- 4 開会
- 5 館内視察
博物館バックヤードを視察。
- 6 理事長あいさつ
師走の忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。今回の会議では、冒頭に博物館のバックヤード視察を実施し、資料が収蔵されている様子をご覧いただきました。
伝国の杜は今年度もコロナ禍の影響を受けている。昨年度よりは若干利用状況が回復したものの、この状況が長く続けば、お客様の「行ってみよう」という意欲が退化してしまうのではないかと懸念しているところである。令和3年度は開館20周年という年で、事業ごとに様々な工夫を施してきたが、もっと多くの方に来場いただきたかったと痛切に思う。こうした中で、来館者目線の評価・意見は非常に貴重であるので、今後も当館の諸事業をご覧いただくとともに、運営に関すること、いかにすればより多くの集客が望めるかなど、ご意見を頂戴したい。
- 7 布施会長あいさつ
コロナウイルスの流行がなかなか収束しない中、今年度第2回目の会議を無事に開催することができて喜ばしい。各職場、各家庭においても日々様々なコロナの影響が見られることと思うが、文化事業は、地域にとっても非常に重要なものである。いろいろな意見を出していただき、良い状況につながる場になればと考える。
- 8 協議
(1) 令和3年度上半期の主な事業の実施状況と今後の予定
概略を事務局から説明。

(委員) 展覧会に関しては、例えば「上杉鷹山」など過去企画したことのあるテーマを取り扱うにしても、新たな視点・切り口から構成することで内容に深みが出ていると感じた。
来館者アンケートの結果からは、広報手段としてはポスター・チラシの効果が高いが、事業によっては市報等が来場のきっかけとなる割合が多

いことや、来場しやすい時間帯も分かった。コロナ禍での傾向も見えてくると思うので、分析を進めて今後に活かしていただきたい。

- (事務局) 展示計画においては、過去のテーマを練り直す際は、新しい視点を生み出していきたい。そのためには調査研究が欠かせないので、時間を上手く使いながら学芸員で努力していきたい。

広報手段については、紙媒体の配布先の熟考、SNS 発信の仕方の研究なども必要だと考えている。様々な広報手段を組み合わせながら効果的な形を模索していきたい。公演の開催時間の設定については、出演者等との協議の際参考にしたい。

- (委員) 今年度上半期は来館者の満足度の高い事業が多かったようであるだけでもっと多くの集客があれば良かったと残念に思う。また、高校生の利用が少ない点が気になる。チラシやポスターはよく目にするが、その他の情報は意外と目に入らず、生徒にも届いていないのかもしれない。高校生が企画段階から関われる事業や、高校生が興味を持ちそうな企画もぜひ検討いただきたい。

- (事務局) 高校生や大学生の利用数アップは経年の課題である。伝国の杜ファンクラブの会員数も、全体数が多い年は学生の登録割合が高かった。

指定管理の事業計画枠組みの中で、可能な範囲で調整しながら若年層に興味を持ってもらえる事業の展開を考えていく。

- (委員) 博物館バックヤードの視察では、施設の機能や実際に資料の収蔵の様子を見ることができて有意義だった。展示事業においては開館からの20年で118の展覧会を開催したということで、相当の苦労を察すると同時に、県内博物館の中でも優れた内容なのであろうと思う。

中学校としても伝国の杜は良い教育機関であり、博物館には米沢に関する学習や職場体験等で、ホールは演奏会等で利用する機会がある。学社連携の在り方で難しい部分もあるが、今後ともよろしくお願ひしたい。

- (委員) 小学校でも、社会科の授業で伝国の杜を見学した。身近な施設として小学生の利用を促せるように、また教頭会においても教育機関としてPRしていきたい。博物館が、魅力的な価値ある資料が所蔵されている機関であるということを子どもに伝えていくことも大切だと感じた。

- (委員) 以前住んでいた山形市と比べ、米沢では絵本の読み聞かせがあまり盛んではないように感じていたところだったので、ホールの「絵本の読み聞かせ『絵本のじかんだよ!』」、企画展「きかんしゃトーマス」は、子どもにとってもとても良い企画だったと思う。

期待したい事業の内容として、名作絵本や日本の作家の原画を紹介する展示など。また、市外で地域の子どもが地元の遺跡を調査・研究した成果を説明案内する事例があり、そういったものも興味深い。さらに、以前まち歩きに参加して大変楽しめたので、新旧の地図・絵図を見比べながら体験できるような企画で、学生はスマートフォン等で連携表示できるような機能があれば目を向けやすいと思う。

- (委員) 展示ガイドのボランティア活動はコロナ禍による制限が設けられているが、案内した小学生の中には、洛中洛外図屏風の前を素通りしてしまう子もいたが、事前に少しでも概要や要点の説明をすると、鑑賞の仕方も違って来るようであった。

9月に尾花沢の中学生が修学旅行の際に伝国の杜で能楽の研修を行ったというニュースを視聴し、非常に感動した。展示物等のそのものから一歩進んで、伝統芸能や文化を学ぶことの重要性を感じた。

広報に関しては、チラシ等の媒体も大切だが、一人一人の口コミも大切だと感じた。

(委員) ホールの「山響とみんなで創る音楽会」、「AUN J クラシック・オーケストラ」を鑑賞した。出演者側はコロナ禍で公演できない期間が続いたものと思うが、その中でやっと演奏の機会を持てたというのが伝わってきて、より感銘を受けた。鑑賞者側も公演をたくさん聴きに行くなど、演奏者の奮起につながるようなことを考えていきたいと思った。

博物館の企画展「上杉家伝来 能面・能装束」とホールの「能面から知る能の世界」の連携企画も大変良かった。

伝国の杜は、建物や芝生、築山、周囲の神社といった景観も優れていると思うので、こうした点も含めて観光客等に向けてHP等でPRしてみてもどうか。

(委員) 博物館バックヤードの視察は貴重な機会であった。

伝国の杜での山響の公演は昨年度中止になっており、出演者も来場者も今回の「山響とみんなで創る音楽会」を待ちわびていたのだろうと肌で感じた。演奏も素晴らしく、拍手も暖かかった。

先日ナセ BA で開催された「ウッディコンサート」に山響メンバーがソロで出演していたが、このような施設間での連携活動は集客にもつながると思う。次年度に計画している山響の公演は飯森指揮者を迎えての演奏予定ということで、クラシックファンにとっては非常に嬉しく注目度の高い内容である。満席にするべく、是非連携して宣伝してみてもどうか。

(委員) 博物館バックヤードの視察では、普段は見られない資料を見学することができた。

ホールの公演を鑑賞したが、皆、コロナ禍で文化的な催事に飢えていたような雰囲気を感じられた。特別展「狩野派」では、普段米沢では一挙に見ることのできない国宝級の資料が多く並び、会期中数回足を運んだ。地元で国宝の洛中洛外図屏風があるということを知ってもらえる良い機会であったし、もっと多くの人に見てもらいたかったと思う。

常設展の「上杉文華館」は今年度、上杉定勝をテーマに展開されているが、非常に興味深く、楽しみにしている。

(2) 令和4年度の事業計画(案)

概略を事務局から説明。

(3) その他

特になし。

(事務局) 今年度開催事業の外部評価について、引き続きご協力をお願いします。また、令和4年2月に開催予定の「山形交響楽団ユアタウンコンサート米沢公演」においては、「上杉敏子基金」を活用した親子・学生等の招待事業も予定している。詳細は改めてお知らせするので、ぜひ活用・広報いただきたい。

長時間のご協議に感謝申し上げます。

9 企画展視察

企画展「上杉家伝来 能面・能装束」を視察。

以上